夏の晩方あった話

小川未明

青空文庫

「おじさん、こんど、あめ屋さんになったの。」
正ちゃんは、顔なじみの紙芝居のおじさんが、きょうは、あめのはいった箱をかついできたので、目をまるくしました。
「ほんとうだわ、おじさん、あめ屋さんになったの。」と、花子さんもききました。
「ええ、あめ屋になりましたよ。」
「どうして？」
「紙芝居がたくさんになって、話では、はやりませんから、これからあめで、なんでも造りますから買ってくださいね。」と、おじさんは、いいました。
そこへ、英ちゃん、誠さん、年ちゃんたちが集まってきました。
「おじさん、さるでも、たぬきでも、なんでも造れて。」
英ちゃんは、不思議そうに、おじさんの顔を見ました。
「いつ、おじさんは、けいこをしたんだい。」と、誠さんが、ききました。
「おじさんは、もとから、このほうがお話よりもうまいんです。」と、おじさんが、笑いました。

正ちゃんは、お家へ駆け出してゆきました。年ちゃんも、つづいてゆきました。お母さんに、おあしをもらってくるためです。そのうち正ちゃんは、にこにこしながら、もどってきました。

「なにをこしらえてもらうかな。」と、正ちゃんが頭をかしげました。

「正ちゃん、うさぎがいいだろう。」と、誠さんがいいました。

「うさぎなんか、つまらない。それよりか、象がいいな。」

「ああ、象がいいわ。」と、花子さんが、いいました。

正ちゃんは、動物園で見た象のことを思い出して、それがいいと思ったから、

「おじさん、象をこしらえておくれよ。」と、おあしを渡しました。

「はい、はい、象をこしらえますかな。」と、いって、おじさんは、あめを管の先につけて、まるめたり、吹いたりして、やっと一ぴきの象ができ上がりました。

すると、これを見た、子供たちは、笑い出しました。

「おじさん、これが象なの？」

「象と見えませんか。」

「鼻が足みたいだ。」

「尾が、あんまり大きくて、みっともないよ。」
みんなは、げらげら笑い出しました。おじさんは、きまりが悪くなって、
「象は、下手ですから、なにか、ほかのものを造ってあげましょう。」といいました。けれど、子供たちは、もう、信じませんでした。
「おじさんは、やはり、お話がいいよ。」と、年ちゃんがいいました。
「ああ、お話がいいね。」と、みんなが、賛成しました。
夏の白い雲がうごく、空の下の原っぱで、子供たちは、おじさんを取り巻いて、かわいそうな子供のお話をききました。絵紙はなかったけれど、話が上手で、目に見る気がしてみんなは感心してきいていました。お話が終わると、おじさんは、あめを分けてくれました。
「おじさん、たぬきや、象をつくるより、よっぽどお話のほうがおもしろいよ。」
「もう、そんなもの、つくるのおよしよ。」
「じゃ、また明日から、紙芝居の道具を持ってきますかな。」
「僕たち、ほかの人のをきかないから。」
「ありがとうございます。」と、人のよいおじさんは、喜んで、箱をかついで、お家へ帰

りました。

どんなに、おじさんは、やさしいみんなの心(こころ)を、ありがたく思(おも)ったでしょう。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　10」講談社
　　1977（昭和52）年8月10日第1刷発行
　　1983（昭和58）年1月19日第6刷発行
※表題は底本では、「夏《なつ》の晩方《ばんがた》あった話《はなし》」となっています。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：仙酔ゑびす
2012年5月6日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夏の晩方あった話

小川未明

２０２０年　７月１８日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/